

日本学術会議公開シンポジウム

「自然史標本の継承－人類の財産を失わないために今なすべきこと－」

1. 主催：日本学術会議基礎生物学・統合生物学委員会合同 自然史標本の文化財化分科会、動物科学分科会、自然史・古生物分科会
 2. 後援：生物科学学会連合、自然史学会連合、日本分類学会連合、科学研究費補助金基盤（B）「自然史財の総合的研究」
 3. 日時：平成26年9月19日（金）
 4. 場所：日本学術会議（〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34）
 5. 開催趣旨：東北地方の博物館等施設に保管されていた自然史標本が東日本大震災で被災したことを教訓に、学術会議は「自然史標本の文化財化分科会」を設置し、自然史標本の公的位置づけについて2年間に渡って論議してきた。その成果に加えて、そもそも自然史標本とはどのようなものなのか、その種類、研究上の位置づけ、社会的意義等々の重要性を社会に知ってもらうことを目的とする。
 6. 次第：－講演時間20分＋質疑応答5分－
 - 13:00－13:10 開催挨拶と趣旨説明
馬渡駿介（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）
 - 13:10－13:35 「自然史標本の国家的収集・管理・活用と国立科学博物館」
林良博（日本学術会議連携会員、国立科学博物館館長）
 - 13:35－14:00 「生物標本と分類学」
大原昌宏（北海道大学総合博物館教授）
 - 14:00－14:25 「人骨標本と人類学」
篠田謙一（国立科学博物館人類研究部長）
 - 14:25－14:50 「岩石・鉱物標本と地質科学」
佐野貴司（国立科学博物館地学研究部研究員）
 - 14:50－15:15 「自然史標本と生態学」
加藤 真（日本学術会議連携会員、京都大学総合人間学部教授）
 - 15:15－15:30 （休憩）
 - 15:30－15:55 「自然史標本と博物館」
瀬能 宏（神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課長）
 - 15:55－16:20 「自然史標本と文化財」
山崎 健（国立奈良文化財研究所埋蔵文化財センター研究員）
 - 16:20－16:45 「自然史標本は自然史財である－植物および古生物標本を例に－」
西田治文（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
 - 16:45－17:00 （休憩）
 - 17:00－18:00 パネルディスカッション
（司会）*松浦啓一（国立科学博物館名誉研究員）
（コメンテーター）講演者全員
- 18:00 閉会